

私の好きな漫画家3人

- ① 柳沢きみお
- ② 入江紀子
- ③ 岩明 均

創刊当時、大教大の印刷室で、輪転機を回していたこと、オシロイという今では考えられないようなちやちなワープロで文書を打っていたこと、走馬燈のように思い出します。もう9年も昔のことなのですね。年を取るはずじゃわい（ゴホゴホ）。

柳沢きみおは、サラリーマン向けのマンガを多く書いている。

「俺にはオレの唄がある」「未望人」「愛人」などで理性で押さえきれない愛だとか恋だとかを描き同時にサラリーマンって何なんだろうと言う問いかけをしています。「寝物語」「大市民」は自分だけの人生について問いかけてきます。バックボーンには、生きることについてのこだわりがあり、今の社会や男達への憤りがあるように思います。ダンディズムへの招聘。それを様々な著作で表現しているのでしょう。

他の著作：「東京千夜一夜」「男の自画像」
「七百三十夜」等

入江紀子は、あっさりした絵を描く人です。「なんぎな奥さん」に代表される登場人物が、皆あっけらかんとしていて見ていると楽しくなってきます。

たまに麻雀誌に載るのもいいよね。

他の著作：「ネコの手貸します」「ママのめくじら」
「12ゲームの怒れる女」等

岩明均は、「寄生獣」で有名になった人です。まだまだ絵が変化しますが、これから大きくなる人ではないでしょうか。

他の著作：「風子のいる店」「骨の音」